

電力会社	出力(万kw)
東電	90
京浜東北	60
東横	100
東海	60
北陸	25
関西	105
中国	36
四国	100
九州	40
沖縄	35

原子力発電所の代替電源として依存度が高まっている火力発電所だが、トラブルが相次ぎ、電力供給を逼迫(ひっばく)させる要因になっている。本来ならピーク需要時の電力供給をバックアップする役割の火力発電所がフル稼働を強いられ、過度な負荷がかかっていることが予期せぬ故障につながっている可能性もある。(10面に関連記事)

代替「火力」相次ぐ古

お盆休みの13日には、関西電力の堺港発電所が、(ガス火力、大阪府堺市)のタービンが損傷し、40万kwの供給が停止。中国電力の三隅発電所1号機(石炭火力、島根県浜田市)でも9日、配管損傷が見つかると、原簿1基分に相当する100万kwを喪失した。三隅の停止は、原発事故後の電力供給不安の中で2度目。堺港の場合、復旧に数カ月かかる見通しだ。関電によると、火力発電所が1日以上停止したトラブルは、4月から7月末までに13件発生している。昨年度の29件に比べてペースは速く、夏の電力需要への対応のため、定期検査を先延ばししていることなど

関電すでに13件 フル稼働しわ寄

働かせるなど「余裕のない運転状況」(幹部)のま



始業式に向かう県立高田高校の生徒たち(17日午前、若手県大船渡市)

所の運転格好は、コストを下げ、今度の事故では津波により予備電源まで喪失しており、この状況

東日本大震災の津波で、検査が全廃した若手県高田市の県立高田高校の始業式が17日、仮校舎として利用している同県大船渡市の別の高校の空き校舎で開かれた。震災の影響で、新年度の始まりが5月になった同校は、授業の遅れを取り戻すため、夏休みに入った13日の夏休みもつ終わりは8月4日から13日間の短い夏休みだった。同校では震災で生徒22人と教諭1人が犠牲に。始業式で工藤校長は生徒約500人に「勉強や部活に一生懸命に取り組んで復興に役立つ人になることで、支えてくれた人に恩返ししてほしい」と話した。

震災の死者 157 行方不明 46

震災を歩く

平成7年1月17日に起きた阪神大震災では、被災地に全国から人々が支援に駆けつけた。その数は1年間で延べ137万7千人(兵庫県調べ)。若者を中心にボランティア意識が高まり、この年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになった。全国社会福祉協議会によると、東日本大震災でも7月末時点で延べ62万人を超えるボランティアが訪れている。

若手県高田市では死者・行方不明者が約2千人、人口の9%を占めた。壊れた建物や車、ねじ曲がった電柱などの撤去が進まぬ地域も多い。大勢のボランティアが被害の中で瓦礫を集め、側溝の泥をかき出すなどの作業をしている。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

友野大地さん(28)は文化4(1807)年創業の老舗Tシャツの販路で、津波から生き残った。津波から生き残った「一本松」の砂浜で展示と願いを記した。河野さんは「単発のイベントでは復興が進められ、街が元気になる」と、同報と祖母の無事がわかれば、東京に戻ったが、「こころをよめてくれた」と、5月末に会社を辞め、現在は被災地と支援活動中。

3・11世代

市内企業でのインターンシップ(就業体験)として活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

故郷思い「懐かしい未来」へ

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと

活動する若者も多い。愛媛大3年の山内香留さん(20)の参加先は、食品卸業の橋本商店だった。橋本商店は4月中旬に自宅を仮店舗にして営業を再開。5月からは同業者らと